unction
アンクション

知っておきたいキリスト教のことば （147）

塗油 とゆ

「塗油」とは宗教的儀式の一環として油を塗ることです。「病者の塗油」はカトリック教会では 7 つの秘跡（サクラメント）の一つですが、聖公会では「病人の按手および塗油」は聖奠的諸式と呼ばれ、「聖霊の導きにより、教会のうちに行われてきたもの」として、聖奠（サクラメント）である洗礼・聖餐とは区別されます。

聖公会では以前、塗油のことを「抹油 （終油）」と呼んでいました。そのため「葬りの備え」というイメージが大変強かったように思います。危篤状態になったら司祭に「抹油」をお願いする、という流れを、思い浮かべるかもしれません。

しかし 1990 年の祈祷書になり、「抹油」に変わって「塗油」という言葉が用いられるようになりました。祈祷書の 335 頁以降に、その式文が載せられています。

最初に読まれる聖書の言葉は、ヤコブの手紙 5 章 14 節以下です。そこでは、病者に対する塗油について読まれ、続いて「塗油によって体と魂をいやし強め、病に打ち勝たせてくださいますように」と祈ります。

塗油は決して、イエス様の十字架の前にベタニアのマリアがナルドの香油を塗ったような、埋葬の準備ではありません。（ヨハネによる福音書 12 章 1～8 節）。

祈祷書 324 頁にはこのようにあります。「教会はその初めから病人に塗油し、その体と魂の回復を祈ってきた。塗油による主の恵みはこれを望むすべての人に与えられる。病人が希望するとき、司祭はこの式を行う。」

つまり一度きりではなく何度でも、おこなうことができる式なのです。塗油を通して神さまに強められ、生かされていくのです。

次回は「執り成し」です。お楽しみに。

「盲人を癒やすキリスト」
エル・グレコ
（1541～1614 年）

あなたがたの中で病気の人は、教会の長老を招いて、主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい。

（ヤコブの手紙 5 章 14 節）